

令和2年5月15日(令和2年(2020年)度第10号)



全国保育士会委員ニュース

本ニュースは、全国保育士会委員、顧問、監事、都道府県・指定都市保育士会事務局に送付しています。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国保育士会事務局

〒100-8980
千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL 03-3581-6503
FAX 03-3581-6509
Mail hoikushikai@shakyo.or.jp
http://www.z-hoikushikai.com

<ニュースの内容>

- 各地の保育所等の取り組み ～北九州市保育士会、あけぼの愛育保育園の対応状況～

◆ 各地の保育所等の取り組み ～北九州市保育士会、あけぼの愛育保育園の対応状況～

今号の「全国保育士会委員ニュース」では、全国保育士会 北野久美 副会長より、北野副会長が園長を務めるあけぼの愛育保育園がある北九州市の状況と、北九州市保育士会、あけぼの愛育保育園の取り組みをご報告いただきます。

新型コロナウイルス感染症への対応

刻々と変わる状況の中ですから、この委員ニュースがお手元に届くときには対応も変わっているかもしれません。5月12日現在のあけぼの愛育保育園および北九州市保育士会組織としての実践をお伝えいたします。

各園がおそらくまず戸惑ったのは卒園式、入園、進級という年度替わりの大きな行事に対する取り組みではなかったでしょうか。

子どもや保護者にとって、長時間過ごした保育園生活の締めくくりの卒園式、これから保護者と離れて過ごす集団生活の入り口である入園式。いずれも思い入れの深い行事ではありますが、人もたくさん集まる場でもあります。行事の縮小、卒園式のあり方も含め、理解促進のために、「本園のコロナ感染防止の考え方」を明確にし、3月9日から保護者に配信しました。

第1弾には園児、保護者、職員の安全を優先に考えた上での対応として、下記の7項目を丁寧に説明しました。

- ・施設内での消毒
- ・登園時の検温
- ・通勤時のマスク着用の義務付け
- ・全職員への手指消毒徹底
- ・体調不良の職員の自宅待機
- ・行事、会議、研修、出張の変更・自粛
- ・業者等来園者も入り口での検温、手指の消毒等実施

10 日後には第 2 弾として、原則「開園」ではあるが最善の状況判断をすること、そして、家庭保育への協力を呼びかけるとともに、感染予防の徹底と発症者が出た場合の対応について明記し、さらに入園式等の縮小の旨を含めた第 3 弾と、状況に応じての園の考え方を、順次メール送信するとともに、ホームページにも掲載しました（現在も継続中）。

また、緊張感のなかで、保育を継続している自園の保育者に対しても、日本赤十字社発行の「新型コロナウイルス感染症に対応する職員のためのサポートガイド」※を活用しつつ、心身のケアにも努めると同時に、北九州市保育士会会員に対しても感謝とエールのメッセージを配信しました。

以下、北九州市保育士会組織としての対応等と、園での取り組みを時系列に沿ってお伝えします。

※ 日本赤十字社「新型コロナウイルス感染症に対応する職員のためのサポートガイド」
http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200330_006139.html

組織としての取り組み、行政との協議

4 月 2 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者の集団感染が発生した新小文字病院<small>しんこもんじ</small>の職員の児童が、市内 21 の保育園に登園していることが判明。 ・同日早朝、小倉南区の保育園に保護者から陽性との連絡。早朝で行政と連絡が取れなかったため当該園が独自に判断し臨時休園をしたことに端を発し、保育組織として行政との協議が始まる。
4 月 8 日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県が、4 月 7 日に発令された「緊急事態宣言」の対象地域とされたことを受け、北九州市の子ども家庭局長、部長、課長と協議し、緊急事態宣言を受けた保育園・保護者向けの登園自粛依頼文書について協議を実施。 ・文書についての協議は完了したものの、「濃厚接触」の解釈を市の上層部が問題視し、9 日未明まで協議を継続した結果、同日午後より市長と話し合いの場を持つこととなる。
4 月 9 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会見後の市長と会談の場を持ち、今回の行政の一連の対応について抗議したところ、市長が認識不足を陳謝。 ・北九州市新型コロナウイルス感染症対策会議の決定事項について、保育園は人の密接が必至、生活インフラを支える場であると、内容が変更される。 ・同日、市議会議長等とも会談し、保育園に対する理解と支援を約束してもらう。
4 月 13 日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の市内陽性者の発表で、児童が登園していた保育園名が報

	<p>道されたことを受けて、保育園名の公表のあり方等と保育園における対応等（下記）について、行政と協議を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 保育園名の公表のあり方等について（公表と行政のフォローはセットであるべき） ➤ 登園自粛に伴う保育体制、休業補償や給食提供等について ➤ 施設向け、保護者等による送迎時の注意喚起通知について
4月15日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・施設向け、保護者向けの下記通知内容について行政と協議。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 新型コロナウイルス感染による保育所等の臨時休園に関する説明 ➤ 「新型コロナウイルス感染症の終息に向けた家庭での保育のお願い ➤ 保育料の減免の手続きについて ➤ 登園状況調査について ・あわせて、園の手立てと行政の責任の明確化に向け、フローチャート等の作成を求める。
4月24日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市保育所連盟、北九州市保育士会の役員会議を下記内容にて開催。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 理事会及び総会の開催方法について（新型コロナ対策） ◇ 新型コロナウイルス感染防止対策について経過報告 等
4月28日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市保育所連盟、北九州市保育士会の各会長からの会員向けビデオメッセージを作成し、YouTubeで発信。
4月29日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・連休を前に下記の通知等について行政と協議。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「5月7日以降の保育所等の利用について」通知文 ➤ 保護者等の混乱を回避するため登園自粛措置の延長
5月7日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・下記について行政と協議。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 緊急事態宣言解除後の保育所運営の対応（案）について
5月11日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・下記について行政と協議。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 緊急事態宣言解除後の保育所運営の対応（案）について ➤ 緊急事態宣言の解除及び企業への自粛要請の緩和等の想定での保育所の受け入れ態勢について * 5月14日に、福岡県が緊急事態宣言から解除された場合であっても、 <ul style="list-style-type: none"> ・一斉に登園するのではなく、 <ul style="list-style-type: none"> → 5月18日から3歳未満児の慣らし保育（1週間程度） → 5月25日から3歳以上児の段階的受け入れ ・保護者に対して、 <ul style="list-style-type: none"> → 企業に対する規制緩和が出されても、保育園における

	<p>新型コロナウイルス感染の危険性が低下したわけではないと認識してもらう</p> <p>→ 新しい生活様式（ニュースタイル）について認識してもらうよう周知する</p>
5月14日（木）	・北九州市保育士会会員向けビデオメッセージ（第2弾）の作成

こうして時系列で行政と実施した協議等をお伝えしましたが、何よりも、子どもの命と心を守るため、譲れないことは譲れないというスタンスで話し合いを重ねています。

自園での対応

ひるがえって自園では、前述のように、園の考え方を明確に示す一方で、登園自粛に協力いただいている保護者や子どもたちに向けての取り組みとして、大切にしたのは「関係性を途切れさせない」ということです。

医療従事者をはじめ、社会を支えるために休業できない保護者への精神的な支えはもちろんですが、年度初めで、まだ数日しか登園していない新入児、心弾ませて進級したのに長期間休んでいる子ども達、休業で家庭保育をしつつも戸惑いを隠せない保護者に対して、園でできる精一杯のことをと、できることをすぐに形にし、取り組んでいます。

- メールでの情報発信（お役立ちサイトのお知らせ、体調等のお伺い、夕食メニューの参考例等）
- YouTube での動画配信（手作りおもちゃの作り方、手遊び、運動遊び、人気メニューの作り方、担任からの一人一人の名前を呼んでのメッセージ、保育室や園庭の様子、ダンス等）
- 郵便で郵送（メッセージ、折り紙、製作型紙、情報誌等）
- メールでの子育て相談
- 園庭での図書の貸し出し（図書館も動物園も休館の中、せめて良質な絵本や図鑑の貸し出しができたらと年齢ごとに時間差をつけて実施） 等

保護者からは、緊急事態でも休めない保育者たちへエールや感謝のメールに加え、子どもと向き合う時間の中で感じた成長や対応への相談もありました。子どもたちからもお手紙、電話、そして、卒園児からも応援の手紙と、これまで以上に「つながり」を実感できる時間にもなっています。

交代で在宅勤務をしている職員（パート、代替も含め）とも、一日の報告をしあうことで、思うように保育を展開することはできない状況のなかでも、理念や目標の共有と同時に、リスクは大きいけれど、「保育」という営みの役割の大きさも再認識しているところです。早くから園としての対応を明確に打ち出していたことが、協力体制につながったのだと考えています。

今後の課題

他者を園内に入れるというリスクを負いながらも、TV取材に協力しています（TV2社より取材を受け、4回の放映）。それは、保育は、保護者の就労支援の役割と子どもの健全育成という2本柱と同時に、社会のライフラインの要であること、保育者の専門性といったことも社会に強く認識してもらい、社会的地位の向上を図りたいという想いの上です。キャスターのコメントに、社会を支える大切な仕事という言葉が多く入るようになりました。

自分も感染するかもしれない、感染源になるかもしれないという3密のリスクを抱え、日々緊張感のなかで、子どもたちの心と体を全身で受け止める保育者たちの実像を発信する役割も担っているだけに、各方面とのやり取りも丁寧に行いました。

治療薬やワクチンが整い、新型コロナウイルスが完全に終息したわけではありません。むしろ、これからの暑い時期の換気の問題や他の感染症といった問題に加え、年々被害が甚大になる台風や水害といった自然災害が加わると、保育現場は崩壊します。

だからこそ、今回の一連の対応以上に、行政との綿密な交渉、リスクへの対応、保護者との協働、園の明確な態度、職員との情報共有が大切になると考えています。